

印度學佛教學研究

第二十卷第一號

[通卷第39號]

昭和46年12月

日本印度學佛教學會



印度學佛教學研究

第二十卷 第一號

東京大學における
第二十二回學術大會紀要（一）



昭和46年12月

日本印度學佛教學會



**JOURNAL
OF
INDIAN AND BUDDHIST STUDIES**

Vol. XX No. 1 December 1971

[39]

**PROCEEDINGS (1)
OF THE TWENTY-SECOND CONGRESS
HELD AT
TOKYO UNIVERSITY**

Edited by
**JAPANESE ASSOCIATION OF
INDIAN AND BUDDHIST STUDIES**



印度學佛教學研究

第二十卷 第二號

東京大學における
第二十二回學術大會紀要（二）



昭和47年3月

日本印度學佛教學會

南無正法藏書印
PDG

JOURNAL
OF
INDIAN AND BUDDHIST STUDIES

Vol. XX No. 2 March 1972
[40]

PROCEEDINGS (2)
OF THE TWENTY-SECOND CONGRESS
HELD AT
TOKYO UNIVERSITY

Edited by
JAPANESE ASSOCIATION OF
INDIAN AND BUDDHIST STUDIES

目次

大乘経典の発達と阿闍世王説話	平川彰	一
親鸞における転成の意味	石田充之	二三
シナ如来蔵思想	小川弘貫	二六
聖徳太子の「諸法実相」釈について	金治勇	二八
法然房源空の中国浄土教観	小川貫式	三三
伝教大師最澄の上宮廟誓願詩について	牛場真玄	四〇
宝雨経をめぐる若干の考察	滋野井恬	四四
東西比較哲学の原点	松尾宝作	五三
華嚴経における大悲方便	増田英男	五五
戒体について	土橋秀高	六三
時衆の清規について	河野憲善	七〇
悲華経の檀波羅蜜行について	宇治谷祐顕	七二
大蔵経と禅録の入蔵	柳田聖山	七六
阿闍仏国経と大阿弥陀経の成立の先後	静谷正雄	八四
御湯殿上日記にあらわれた浄土教	玉山成元	八八
仏教カウンセリングから見た家族関係	藤田清	九四
親鸞主著『教行信証』以後の、主要問題についての日本学的構想	小野正康	九六
再び篤敬三宝章について	望月一憲	一〇五
アートマンと光の表象——古ウパニシャッドと原始仏教——	村上真完	一〇六
シュローカ・ヴァールテイカ「文章論」の一節——「文章無部分説」批判——	山崎次彦	一一五
晩年の法然上人	藤吉慈海	一二

良忍上人と鞍馬寺		浜田全真	一六
平安朝における念仏信仰の展開——往生伝を中心に——		早苗憲生	一三
上総内信門徒の一考察		中村孝也	一三
美作修験と後山信仰		豊島修	一四
真宗安心の現代的解明——親鸞の廻心について——		藤田恭爾	一五
小川独笑と小川宗		菊地武	一六
本願の理解——法然と親鸞について——		五十嵐大策	一四
道元禪師の疑團についての一考察——本証妙修に関連して——		新野光亮	一四
親鸞に於ける二河譬の意義		蓑島和潤	一四
「教行信証」の『真実証』に基づく実相の説明		瀬川豊	一四
雲門十二時偈に関する一考察		永井政之	一四
如浄語録を通してみた如浄禪師		高橋秀栄	一五
法華経の陀羅尼における女神について		ナレシ・マントリ	一五
アビダルマ仏教における bhāṇa-loka について		広瀬智一	一五
俱舍論破我品の別撰論問題について		三友健容	一五
チャンドラキールティと婦謬論法		伊藤藤浄	一六
原始仏教における人間存在の問題——スッタニパータを中心として——		中村了権	一六
大乘仏教小観		和田昌太郎	一六
現代ヒンディー語動詞の活用について		坂田貞二	一六
空海とホワイトヘッドにおける位相的原理の考察		吉原瑩	一六
詩人ミールに就て		鈴木斌	一七
シャーンデイリヤのアートマン観		湯田豊	一六
——チャーンドーギヤ・ウパニシャッドⅢ・14——		小野蓮明	一六
信の歴史性			

仏葬習俗の庶民儀礼考

口伝鈔について(二)

行一念釈・信一念醒

浄土教における超越と内在の論理

選択思想について

親鸞聖人の仏身観(二)

『教行信証』における菩薩

罪と死をめぐる——御文章の考察——

親鸞教学における末法思想の意義

中世浄土宗寺院の研究——特に敦賀西福寺の成立と外護者——

白鳳時代の浄土教美術について

胎藏マンダラの資料について

大日経義釈における法華経の引用について

結縁灌頂の庶民化(二)——近世における結縁灌頂——

秩父観音霊場の法権力的変容——明治期の神仏判然令の痕跡と問題点——

沙石集における叡山仏教

勝鬘経義疏に見える「本義」について

道元とルターにおける「信」について

道元禅師の伝説

日蓮の用いた勘文(かんもん)の義について

「孟銑伝」について

南泉と趙州

禅宗は恵能と壇経以後に(二)——禅源諸詮集都序より考察して——

中国往生伝の倫理

和田謙寿 一七

岸部武利 一五

小林昭英 一五

岡邦俊 一九

納富常天 二〇

藤原大円 二〇

石原斌夫 二一

市川良哉 二五

菊藤明道 二五

宇高良哲 二六

石崎達二 二六

八田幸雄 二六

清田寂雲 二六

上田靈城 二六

荒井貢次郎 二六

渡辺守順 二七

渡部孝順 二七

笠井貞 二五

東隆真 二六

岩佐貫三 二六

金子寛哉 二七

平野宗浄 二七

長嶋孝行 二七

江隈薫 二八

僧祐の著作活動	内藤雄	二八四
天台智顗の時間論	池田魯參	二八六
梁高僧伝に於ける神異について	田中敬信	二九一
北魏洛陽にみる仏教と西王母神仙思想	服部克彦	二九四
『大乘義章』『八識義』について	吉津宜英	二九六
『中論』の二諦説——その一——	高橋 壯	三〇三
「自生」の否定(下)——ツォンカバ造入中論釈の研究——	小川 一	三〇七
量評釈・プラマナーナシツディ章の宗教論と解脱論	木村 俊彦	三二三
世親と楞伽經との前後論について	舟橋 尚哉	三三二
十二因縁における認識と存在の問題	山本 啓量	三三七
有部の八事俱生説	吉元 信行	三三一
法華經における仏性思想の内在性	有賀 要延	三三七
六群比丘と十七群比丘	春日 礼智	三四三
十二支縁起体系の構造について	櫻尾 慈覚	三四八
パーリ諸注釈書に見られる <i>Bhāṇaka</i> をめぐって	森 祖道	三五三
普曜經の周辺——ある仏伝經の變容過程——	平井 宥慶	三五七
<i>Jinaputra</i> ・ <i>Ācārya Jinaputra</i>	高崎 正芳	三六一
十地經における <i>jñāna-bhūmi</i> についで	伊藤 瑞叙	三六五
円成実性としての <i>sad asac ca tadvam</i>	葉 阿 月	三七三
ラトナーカラシャーナンティの三性説	海野 孝憲	三八三
印度系思想の日本的受客(1 輪廻・転生)	田中 孝海	三八七
近代における仏教女子教育について——高等女学校の場合——	斎藤 昭俊	三九三
他阿の形成	竹内 明	三九七
ババト・平川共訳英訳善見律毘婆沙	佐藤 密雄	四〇三

学会創立二十周年記念第二十二回学術大会記事	四〇八
会則・役員名簿	四一六
執筆者紹介	八三・三九・五二・六五・四一
『マン・ヴァスシ』の授記思想	藤村隆淳
ḍākinījālasaṃvara の原像	津田真一
仏典におけるナーガ	定方晟
《十二因縁呪》覚え書	湯山明
Transmission of Religious Experience in Soto-Zen Tradition	Satoko AKIYAMA
Christian 'Love' and Buddhist 'Compassion'	Shoyu HANAYAMA
Asvabhāva's Commentary on the <i>Mahāyānasūtrālaṅkāra</i> IX. 56-76	Noriaki HAKAMAYA
The Essence of the Sāṃkhya II	Megumu HONDA
On the Knowability and Expressibility of Absolute Reality in Buddhism	D. Seyfort RUEGG

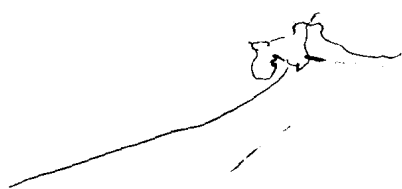
目次

三性三無性の源流	福原亮一
心性本淨の意味	水野弘元
慧能研究に関するメモ	関口真大
ヨーガ学派と仏教	今西順吉
至誠心と Ernst	峰島旭雄
日蓮の日本天台史観	浅井円道
Nirveda-bhāgiya 2050	磯田熙文
大乘涅槃經所引の經典について	河村孝照
選択集についての一考察	高橋弘次
インド拝火教徒の鳥葬	相葉伸次
中国南北朝時代における律僧の活躍	佐藤達玄
中世における日蓮教学の展開	茂田井教享
新羅審祥の教学について	平岡定海
親鸞聖人の菩提心釈	佐々木徹真
法然浄土教における一向専修の形成について(一)	坪井俊映
台湾の仏教儀礼——朝暮課誦について——	鎌田茂雄
伝教大師における国家と福祉——『守護国界章』の思想的基盤について——	橋本芳契
隋代における『涅槃經』の研究講説	佐藤心岳
印融法印と関東東密流伝について——印融の周辺——	伊藤宏見
中世の村校について	久木幸男
深縁起の運動方向	川田熊太郎

阿含經典を中心としたヴァーカラナの訳語について	割田剛雄	一六
『瑜伽論』に於ける過去未來実有論に就いて	向井亮	四〇
三摩耶戒と根本過失	遠藤祐純	四三
大日經の章の同異について	越智淳仁	四四
荷沢神会と引用經典	金原東英	四六
『靈異記』の法華經	川口恵隆	四六
日本達磨宗に関する一考察	矢島智津子	五〇
「正法眼藏涉典統紹」における引用外典の意義	大谷哲夫	五三
真宗往生義——時の問題と関連して——	林智康	五五
善光寺信仰と真宗高田派の關係	嶋口儀秋	五五
真宗学における仏智印現説について	福原蓮月	五五
體驗に基づく數異抄の研究(三)——宿業について——	木下みや子	六〇
大般涅槃經引用の依本について——日蓮・親鸞の場合——	飛田謙是	六三
大無量壽經異本対照私考(二)——異本原本成立の次第——	宮地廓慧	六四
雲棲株宏と浄土教	中山正晃	七〇
「惡人」往生・再考——中世思想史の新側面——	池見澄隆	七五
親鸞における念仏の意味	信樂峻麿	七九
捨聖の生死觀(三)——善惡について——	石岡信一	八四
源信における密教受容について	和田悌一	八六
親鸞の「三願転入」考	岡亮	八九
広輝釈五位顯訣並棟の曹洞宗旨——有病兼帶説をめぐって——	石附勝竜	九六
『正法眼藏』成立の諸問題(三)——新出資料・真字正法眼藏(三百則)について——	河村孝道	一〇一
「修証義」編纂と曹洞宗説教の問題点	中野東禪	一〇六
道暹の涅槃經疏私記について	坂本広博	一〇九

初期禪宗における観心	武田忠	三三
道元における聖と俗(一)	西山広宣	二七
永平弁道話流通考(続)	遠藤孝次郎	三一
『禪苑清規』の変容過程について——高麗本の考察を介して——	小坂機融	三五
鴻山語録成立の背景とその性格	鈴木哲雄	三〇
鎌倉末期の檀那流——宝樹房・光聚房・智晃抄等を中心として——	尾上寛仲	三七
秘密灌頂三昧耶戒の研究	初崎正純	三三
三十帖策子にみられる大曼荼羅十七尊釈について	真保竜徹	四六
興教大師覚鑊の一期大要秘密集について	松崎恵水	五一
「理趣經」マンダラについて——特に五秘密マンダラを中心に——	福田亮成	五八
五大院安然尊者と密教	木内央	六〇
『薬師經』の伝える十二神将	新井慧譽	六四
唐代禪宗の礼懺について	椎名宏雄	六九
大慧宗杲とその弟子たち(三)	石井修道	七五
妙經文句私志記に関する一試論	多田孝文	七八
中国仏教における戒体観についての一考察	青木孝彰	八二
李通玄における六相と十玄	木村清孝	八六
清末民初における中国の廃仏毀釈について	林　　伝	九一
慧均『大乘四論玄義』について(二)	伊藤隆寿	九五
梁・釈慧皎における歴史意識——特に鑑戒意識の意義について——	桐谷征一	九六
撰大乘論と九識説について	岩田良三	一〇三
日本唯識研究——『本文抄』と『同学鈔』——	太田久紀	一〇六
馬祖像の変遷過程	石川力山	一〇九
法華經の方便と発心	田上太秀	一一三

日蓮聖人画像の一考察——とくに「波木井の御影」について——	坂輪宜敬	三六
均如の文学的位置——特に詞腦意に就いて——	金 彊 模	三一
「落書」の一考察	清 田 義 英	三四
原始仏教の禪定観	吉 瀬 勝 彦	三八
法華經安樂行品の「四法」について	荻 谷 定 稔	三二
「遠い因縁」考——『ニダーナクター』燃燈授記物語の特異性——	関 山 一 良	四一
Nirvāṇa 類について	片 山 章 司	四六
原始仏教における無我説について	森 章 司	四六
唯識学派にみる波羅蜜思想	小 沢 憲 珠	五〇
般若灯論におけるサーンクヤ批判の一考察	古 坂 絃 一	五三
「Saṃjāsiddhi」なる著作について	頼 富 本 宏	五七
新正理学における Pāṇini の概念——人称語尾の意味に関して——	長 尾 睦 司	六一
ヤシパール文学研究資料としての雑誌『叛乱』について	田 中 敏 雄	六五
Kālidāsa の作品に見られる Vedānta 的要素	野 部 了 衆	六九
オーロピンドのヴェーダ観	小 林 円 照	七四
凝然の仏教の研究 序説	小 林 実 玄	八〇
法然の伝法について——附・親鸞との関連——	福 井 康 順	八五
D・S・ルエック教授の如来蔵思想研究	高 崎 直 道	九〇
会員・役員名簿		三六六
執筆者紹介		三六・三六〇・三六二・三六九
寄稿されなかつた諸氏の発表題目		二五〇・二五五・二六三・二九〇・三〇五・三四五・三七三・三九八
第二十三回学術大会予告		四四



恒著批判 Shirasiddhidāsaṇa	御牧克己……………
—— Ratnakīrti: Shīrasiddhidāsaṇa ㄅ TS (P): Shīrabhāvanaparīkṣā の比較——	竹中智泰……………
普廻ㄅ個物の關係の1断面	谷貞志……………
—— Bhāṭṭa 派 の bhedābheda 論議ㄅ Nyāya-Vaiśeṣika 批判——	
「瞬間的存在性」論議 Kṣaṇīkatva-anumāna ㄅの「論理空間」の問題	
—— ㄱ 「時間構造 to ⊕ β」を含む「位相空間的論理 system TL ₁ 」の導入——	針貝邦生……………
Arthavāda の三分類法について—— Guṇavāda の成立根拠を介して——	江島恵教……………
Kumārila ㄅのㄅ教批判の1断面	前田恵学……………
Nārāyaṇa の Kenopaniṣaddīpikā	
Criticism of Shuko's "Universality-Particularity-unobstructed"	
Viewpoint by Hakuin from his "Dharma" Standpoint……………	Gishin TOKIWA……………
The Codes of Chōsokabe Motochika and the Economy of Buddhist	
Temples in His Day……………	Kōzen TACHIBANA……………
On the Principle of "negative-intermediation" Seen in the	
Interpretation of Shan-tao's kuan-wu-liang-shou-fo-ching-shu	Haruhiko MASAKI……………
——compared with that of the two famous phrases in an embroidered	
curtain depicting a land called Tenju——	
On <i>Sapiarṣi</i> or The Great Bear	Michio YANO……………
Logical Arguments in the Dialogues (<i>sūtras</i>)	Fuminaro WATANABE……………
A SYNOPSIS of the Madhyamakālamkāra of Śāntarakṣita (I)	Masamichi ICHIGO……………
ANYYATĀSŪTRA	Isshi YAMADA……………
Thoughts on 'Mokṣa'	Esho YAMAGUCHI……………
A Study of Attainment (sho) in Shinran's Kyōgyōshinhō	Shoson MIYAMOTO……………

JOURNAL OF INDIAN AND BUDDHIST STUDIES

(INDOGAKU BUKKYŌGAKU KENKYŪ)

Volume XX Number 1

CONTENTS

The Legend of King Ajātaśatru in the Development of Mahāyāna Scriptures	
Akira Hirakawa, Prof., Tokyo University	1
Significance of 'Transformation' in Shinran's Thought	
Mitsuyuki Ishida, Prof., Ryukoku University	13
The Tathāgata-garbha Thought in Chinese Buddhism	
Kākan Ogawa, Prof., Komazawa University	20
A Study on Prince Shōtoku's Commentary on the <i>Saddharmapuṇḍarīka</i>	
Isamu Kanaji, Prof., Shitennoji Women's College	26
Honen's View on Chinese Pure Land Buddhism	
Kan-ichi Ogawa, prof., Ryukoku University	33
Saichō's poem Dedicated to the Mausoleum of Prince Shōtoku	
Shingen Ushiba, Lecturer, Eizan Gakuin College	40
The <i>Pao-yü-ching</i> and Empress Wu	
Shizuka Shigenoi, Assistant Prof., Otani University	44
The Keypoint of Comparative Philosophy, East and West	
Hōsaku Matsuo, Social Education Institute, Kanazawa University	52
Mahākaraṇā and Upāya in the <i>Gaṇḍayūha-sūtra</i>	
Hideo Masuda, prof., Meiji Pharmacological College	56
'Jiè-ti' (Essence of Śīla)	
Shūkō Tsuchihashi, Prof., Ryukoku University	62
The Monastic Rule of Jishū Sect	
Kenzen Kono Prof., Shimana University	67
Dānapāramitā in the <i>Karaṇāpuṇḍarīka</i>	
Yūken Ujitani, Prof., Doho University	71
Ch'an Texts in the Chinese Buddhist Tripiṭaka	
Seizan Yanagida, Prof., Hanazono University	76

The <i>Ta-a-mi-t'o-ching</i> As One of the Proto-Mahāyāna Sūtras	
Masao Shizutani, Lecturer, Ryukoku University	84
Jōdo Buddhism in the <i>Oyudono-no-ue-nikki</i>	
Jōgen Tamayama, Assistant Prof., Taisho University	89
Buddhistic Counselling and Its Application to Family Relation	
Kiyoshi Fujita, Prof., Shitennoji Women's college	94
The Development of Shinran's Faith after Writing the <i>Kyōgyōshinshō</i>	
Masayasu Ono, Prof., Kyorin Junior College	98
A Study on the Second Clause of Prince Shōtoku's Seventeen Clauses Constitution (II)	
Kazunori Mochizuki, Prof., Tokyo Medical and Dental University	105
Ātman in the Old Upaniṣads and in Early Buddhism—With Special Reference to the Image of Light (jyotis)—	
Shinkan Murakami, Assistant Prof., Tohoku University	110
Kumārila's Criticism on 'Nirbhāgavākya-vāda'	
Tsugihiko Yamasaki, Assistant Prof., Mie Prefectural University	115
Hōnen in His Later Years	
Jikai Fujiyoshi, Prof., Hanazono University	121
Ryōnin Shōnin and Kurama Temple	
Zenshin Hamada, Graduate Student, Otani University	128
The Development of Nembutsu Faith in Heian Period—With Reference to the <i>Ōjōden</i> —	
Kensei Sanae, Hanazono University	130
Nikkei's Influences in Northern Chiba Prefecture	
Kōya Nakamura, Rengeji Temple	132
The Mimasaka-Shugendō Cult and Ushiroyama Faith	
Osamu Toyoshima, Graduate Student, Otani University	134
Shinran's Conversion—A Modern Analysis of 'Anjin' in Pure Land Shin Buddhism—	
Kyōji Fujita, Graduate Student, Ryukoku University	136
Dokushō Ogawa and the Ogawa Sect	
Takeshi Kikuchi, Graduate Student, Otani University	138
The Difference between Hōnen and Shinran in Their Understanding of Amida's Original Vow	